

法然と親鸞

ゆかりの名宝

白く細い道 極楽へ

白い道。中央に渦巻く赤と青。仏教説話画「二河白道図」には、様々な場面がつなぎ合わされ、仏教の教えが分かりやすく描かれている。東京・上野で開催中の特別展「法然と親鸞 ゆかりの名宝」で展示される二河白道図のうち、兵庫・香雪美術館が所蔵する重要文化財の作品（15日から展示）に焦点をあて、その魅力をひもとく。

二河白道図(香雪美術館蔵)

救済説く物語 色鮮やかに

二河白道図は、徳業住生のたえ話を基にした仏教説話画だ。中国・唐時代の僧・善導の著書「観無量寿経疏」の最後に書かれた物語で、法然が比叡山を下りて念仏をとなえれば誰でも救われること説きつけに書いた本末もある。

加須隆誠・奈良女子大教授

(美術史)によると、法然が折に挫かれた話を引用したことで広く知られ、鎌倉時代以降、様々な構図で絵画化されたものになったとい

中では兵庫・香雪美術館が所蔵する二河白道図は絵画表現に優れていることが知られる。

西暦では阿闍梨が待つ。武聖が「危なから戻って」と説き及ぶが、無事を渡り、善と徳業生じた。

徳業住生の緊迫感ある物語が、鮮やかな彩と確かな筆遣いで詳細に描かれている。加須隆誠教授の作品を、様々な仏画や教説話画の要素を盛り込んだ「引用の幾多」と言

例えば西暦に阿闍梨が来る部分は、向かって右の観音菩薩がハスの台座を押し出し、左

の勢至菩薩が台座している。これは同時代に伝承していた二河白道図と同じ構図だ。現世の罪を悔滅する生霊救済を、いたとえ話に加えて、ほの絵画でも導く生き方を描いている。

「江戸では当時の人々なら見聞きしてのことある。そ

うごうごうと説話画と同じ図柄を取らぬで、理解を深めておもしろいところ

(田原浩)



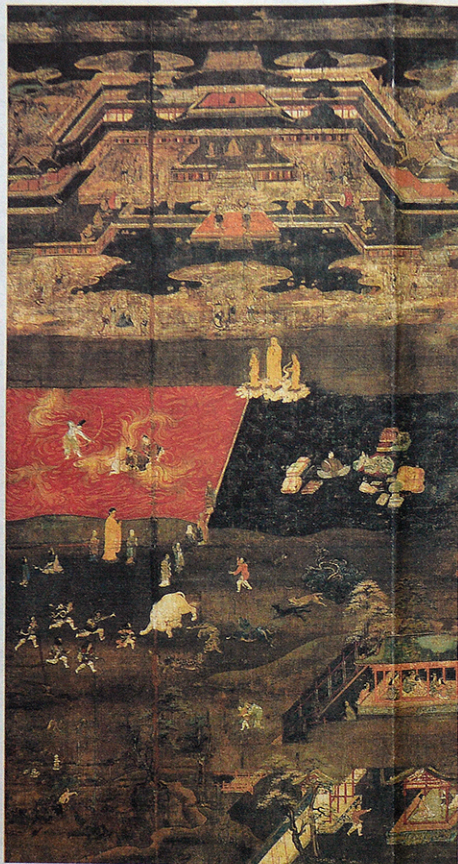
会場の入り口には、二河白道図をイメージした演出も。東京・上野の東京国立博物館、法然親鸞展覧会



欲望を表す水の河。米飯やつづらに入った財宝、豪華な反物と一緒に仲つまずい親子も描かれている。家族への愛情も仏道では「敬」と受け止められた。



幅15センチ、100歩の距離。清浄な徳を表す白く細い道。距離は100歩だが、幅はわずか約15センチ。僧と信者に住在家の男女描かれており、出家の有無性別を問はず、人の救済を示している。



重要文化財 二河白道図
鎌倉時代、兵庫・香雪美術館蔵 縦116.8センチ、横82.9センチ



畜養の闘い。後の心算の道徳を、白く細い道に描き、その先の徳業を導く。白く細い道に描かれた白く細い道は、徳業の道徳を示している。

主催 東京国立博物館、NHK、NHKプロモーション、朝日新聞社
文化庁
後援 トヨタ自動車、日本写真印刷、三井住友海上火災保険
特別協力 知恩院、増上寺、金戒光明寺、知恩寺、清浄華院、善導寺、光明寺(鎌倉市)、善光寺大本願、光明寺(長岡京市)、禅林寺、善願寺、遊行寺、西本願寺、京都 東本願寺、専修寺、佛光寺、興正寺、錦織寺、毫猷寺、誠照寺、専照寺、澄誠寺



お問い合わせ ハローダイヤル03・5777・8800



徳業の道徳。法然親鸞の教えが、徳業の道徳を示している。



無事。徳業の道徳を示している。



火の河。武者たちがふんどし姿の男をねじ伏せ、弓矢をつがえている。白と朱で渦巻くように描かれた火の河は怒りを意味しており、武者の心情をよく表している。



徳業の道徳。法然親鸞の教えが、徳業の道徳を示している。

12月4日まで 東京国立博物館平館まで

■12月4日回まで、東京・上野の東京国立博物館平館。午前9時30分～午後5時(金は午後8時)。入館は閉館の30分前まで。月曜休館。一般は1500円、大学生1200円、高校生900円
■問い合わせ ハローダイヤル03・5777・8800